

2018 年度事業報告

概要報告

1 骨髓バンク事業の現況、運動の成果

骨髓バンク事業は、2018 年度末現在、ドナー登録者数は 509,263 人（年度新規登録者数 49,151 人）と 7 年ぶりに年度ドナー登録者数は 4 万人を超え、移植件数累計は 23,002 件（年度移植数 1,214 件）と移植数は前年度（1,241 件）より若干減少となりました。また、移植患者のコーディネート期間（2018 年暦年）は 127 日（前年 135 日）と 8 日短縮されました。こうした実績は、公益財団法人日本骨髓バンク、日本赤十字社、厚生労働省、都道府県、医療関係者の努力と連携により達成されたものであり、ドナー登録者数の増加については全国各地のボランティア団体での献血活動とともに行われたドナー登録推進活動によるものといえます。

本年 2 月 12 日、競泳選手の池江璃花子さんが白血病発症を公表されました。治療に専念され一日も早い回復を心から願っています。池江選手に関するマスコミ報道が連日なされたことから、白血病とその治療法の骨髓移植や骨髓バンクに対して、国民の注目が高まり、本年 2 月のドナー登録者数は 1 万人を超える記録的な増加となり、ドナー登録者は 50 万人に達しました。ボランティアのみなさまが、全国各地でたゆまぬ努力を重ねてきたことの結果でもあり、心から嬉しく思います、しかし、このドナー登録者増加は、一時的な社会現象とみられるため、今後とも引き続きの普及啓発・ドナー登録推進活動に取り組むことが不可欠です。

3 月 12 日、非血縁者間造血幹細胞移植数（骨髓・末梢血幹細胞移植、さい帯血移植）が 1993 年からの累計で 4 万例を突破しました。日本における骨髓バンクとさい帯血バンクの移植数は毎年 2,600 例（骨髓バンク 1,250 例、さい帯血バンク 1,350 例）と言う実績は、世界でも特筆すべきものとなっており、医療関係者・バンク事業者のご尽力に心からの感謝と敬意を表します。

昨年、骨髓・さい帯血バンク議員連盟のご尽力と国（厚生労働省）の理解により、骨髓バンクの安定的な運営の確保を図る対策（国庫補助金の大幅増額、診療報酬改定増額など）が行われたことから、2018 年 4 月からは 10 年ぶりに骨髓バンクの患者負担金の一部値下げされました。今後とも患者負担金軽減・廃止に向けて継続した運動が必要です。

2 各地団体との連携、財政改善への取り組み

全国協議会は 1990 年 6 月結成から 29 年が経過しましたが、この時間的経過とともに各地団体メンバーの高齢化や活動力の低下などにより、加盟団体数は、現在 38 団体（う

ち休会中 5 団体) となっています。こうした中、全国協議会の活動は①骨髄バンクの普及啓発とドナー募集の支援活動、②患者・家族の支援活動、③ドナー支援活動、④骨髄バンク及び医療充実の要望活動であり、骨髄バンクを広める普及啓発活動では、各地団体とともに目指すところは患者さんのためという同じ思いであることをアピールし、加盟団体・非加盟団体とも一体的な活動としたいと提案し、働きかけをしてまいりました。

全国協議会の財政は、3 年前に経常運営費（繰越財源）の枯渇という危機的状況に直面し、以来組織の存続をかけた財政対策を行ってきました。特に支出は 1 千万円規模での削減（人件費、事務費、交通旅費などの削減）と、収入の増加対策（寄付金、賛助会費など）に取り組みました。こうした努力により、本年度は、一般事業運営費（一般会計・白血病基金・収益会計の 3 会計のこと。患者支援の 3 基金を除く）が、ようやく黒字基調になりました。しかし、財政は大変厳しい状況が続いており予断を許しません。

本年度は、活動資金と患者支援基金の確保のため、企業・団体への働きかけに加え、①東京マラソン 2020 チャリティ寄付先団体としての応募申請と審査対応、②クラウドファンディングの実施企画と準備を行いました。新年度にかけて成果が期待されています。全役員・事務局一体となった全力の努力、対応が必要となってきます。

一方、加盟団体も厳しい財政状況であることから、賛助会員制度を財源とした各加盟団体の活動を支援する「加盟団体支援制度」の運用を開始しました。

3 医療状況、国の動きなど

本年 1 月 31 日「骨髄・さい帯血バンク議員連盟」総会が開催され、厚生労働省から「骨髄バンクとさい帯血バンク事業をより一層拡充する具体案」が報告されました。また、2 月 18 日衆議院予算委員会での質疑において、安倍首相が「政府として骨髄バンクへの支援を一層充実すること」を表明しました。今後、国の対策拡充を注視して行く必要があります。

なお、さい帯血の不正医療「民間（私的）さい帯血バンクからのさい帯血流失事件」が 2017 年 8 月にマスコミで大きく報道されたことから、昨年 12 月国会において法律改正が行われ、民間さい帯血バンクに対する規制ルールが導入されました。

上記の議員連盟総会では、全国協議会として「ドナー登録業務の日本赤十字社への一本化、採血を伴わない登録方法の検討、患者 QOL 向上対策として、妊孕性温存費用の助成制度化、高校生などへの就学支援充実」の 4 項目を提言しました。

国の「第 3 期がん対策推進基本計画」が 2018 年 3 月、閣議決定され、AYA 世代（思春期・若年成人）への対策が、一つの独立項目となりました。AYA 世代がん患者については、就学、進学、就職、結婚、出産、育児など、思春期・若年成人という年齢層での多様な課題があります。その中での妊孕性温存対策では、2017 年 7 月「小児・思春期・若年成人のがん患者の妊孕性温存に関するガイドライン」（日本癌治療学会）が制定され、また、厚生労働省研究班からは、若年がん患者の治療に伴う妊孕性温存に対し公的助成制度を創設すべきとの提言も出されています。

現在、各都道府県単位でのAYA世代がん患者への妊孕性温存助成制度が開始されましたが、未だに5県にとどまっており、本年3月の第41回日本造血細胞移植学会でもテーマの一つとなるなど、ようやく関係学会及び社会的にも関心を集める状況になりました。今後、AYA世代がん患者への支援対策が行政の助成制度となるよう、国及び各都道府県への働きかけが必要となっています。

大学生グループ Colonb's (医療・デザイン・ビジネスの各専門性を活かしヘルスケアに特化したサービスデザインチーム) から「若年層のドナー登録推進」について、大学生などへのアンケート調査を実施した調査結果に基づいた提言があり「世界的には①オンラインでのドナー登録受付、②スワブ(綿棒)での口腔粘膜でのDNA検査導入」が進んでおり、日本も採用すべきとのプレゼンを本年1月の全国協議会理事会終了後に行われました。その後、プレゼン内容は厚生労働省、日本骨髄バンク、日本赤十字社などの関係機関にも提言されました。若者自身による調査活動と提言は、今後大きな反響を呼ぶものと評価されます。

事業別報告

1. 普及啓発事業

「全国協議会ニュース」(機関紙)を毎月定期発行しました。国・行政、議員連盟、関係学会、骨髄バンクなどの状況をタイムリーに掲載するとともに、全国協議会の見解や提言などについても情報発信と情報共有を行いました。NPO法人情報や機関紙掲載記事などは、Webサイト・ホームページ(HP)でも公開しました。HPは、セキュリティアップ、検索のし易さ、使い勝手向上等を図り、全面見直しを行いました。また、HPやFacebook(全国協議会・志村大輔基金)を適宜更新しました。

主催事業は、「2018全国骨髄バンクボランティアの集いin東京」を6月9日(土)東京で開催しました。また、正月恒例の「箱根駅伝での街頭啓発活動」を1月2~3日の両日、東京~箱根間の沿道で、プルデンシャル生命保険株式会社の方々とともに、埼玉・千葉・東京・神奈川の会のメンバーが街頭啓発活動を実施しました。

その他、イベントの共催事業4件、協力事業2県、各地団体が開催する各種イベントの名義後援11件を行いました。さらに、各地団体が開催している「あやちゃんの贈り物展」2件、「MAMOのメッセージ展」4件、「患者とドナーのお手紙展」2件、「いのちの輝き展」13件、「わたしががんばったよ展」10件への協力を行いました。

本年度は、日本造血細胞移植学会総会(大阪開催)に加えて、日本がん・生殖医療学会学術総会でも啓発ブースを設置して、普及啓発活動を地元団体とともに行いました。また、「東京雪祭・SNOWBANK」、「としまふれあいバザール」での普及啓発・募金活動を行いました。さらに、若年層への対応として、中学生の学習訪問の受け入れを行いました。

その他、イベントでの寄付贈呈式12件が開催され、理事長、副理事長、理事、顧問が参加して、寄付への御礼とともに普及啓発活動を行いました。

1) 情報発信及び情報共有

・機関紙の定期発行

全国協議会ニュース 第310～321号 毎月4,500部発行×12回(毎月1日発行)
行政、議員、関係機関、医療関係者、寄付者、各地団体などへ郵送配布しました。

号数	発行月	主な記事内容
No.310	2018年4月	日本骨髄バンク患者負担金43,200円値下げ(負担金廃止へ向けてさらに努力を)
No.311	2018年5月	移植コーディネーターに診療報酬が付与(学会の努力と要望、国に認められる)
No.312	2018年6月	コーディネート期間132日に短縮(患者救済のために100日以下への実現を!)
No.313	2018年7月	全国ボランティア大会の開催(尊厳を持って安心して暮らせる社会を)
No.314	2018年8月	総会・代表者会議を開催(田中理事長就任2年目の抱負)
No.315	2018年9月	国の委員会「目指すべき方向性」議論(患者の社会復帰を主要目標に追加)
No.316	2018年10月	デルタ航空のチャリティマイレージ提供事業(アジア太平洋地域の医療従事者の育成のため提供)
No.317	2018年11月	AYA世代がん患者の妊孕性温存費用の公的助成制度の早期実現を!
No.318	2018年12月	日本骨髄バンク主催 都道府県担当者会議の開催(ドナー登録推進活動の大きな前進を期待)
No.319	2019年1月	新年のご挨拶(会長・理事長、関係機関代表者)私的さい帯血バンクに法規制
No.320	2019年2月	大学生グループ(Colonb's)からの「若年層のドナー登録推進」の提言箱根駅伝での啓発活動
No.321	2019年3月	安倍総理「骨髄バンクへの支援充実」を表明(ドナー休暇制度導入促進、若年層ドナー登録の推進)、骨髄・さい帯血バンク議員連盟総会を開催

・ホームページ(HP)などでの情報提供

全国協議会のHPは、セキュリティアップ、検索のし易さ、使い勝手向上等を図り、全面見直しを行いました。

HPやFacebook等を適宜更新し、全国協議会ニュースや事業報告・決算、事業計画・予算などの情報公開を行いました。

2) 主催・共催、協力、名義後援などの普及啓発

① 主催事業

開催期間		内 容	参加人数	開催場所
2018年	6月10日	2018 全国骨髄バンクボランティアの集い in 東京	150人	日本赤十字社本社大会議室
2019年	1月2日 ～3日	箱根駅伝での街頭啓発活動	443人	東京都および神奈川県内各所

箱根駅伝での街頭啓発活動では、毎年、プルデンシャル生命保険株式会社の全面支援を受け、社員と家族の応援参加者数に応じた寄付を受けており、今年は375名のご参加をいただき、いただいたご寄付は佐藤さち子記念造血細胞移植患者支援基金に繰り入れています。

② 共催事業

開催期間	事業名	開催場所	主 催
2018年	9月15日 ～16日	第27回全国移植者スポーツ大会	神奈川県 横須賀市 特定非営利活動法人 日本移植者スポーツ協会
	11月17日	第25回県民公開講座 「骨髄移植を知ろう」	青森県 青森市 第25回県民公開講座骨髄移植を知 ろう実行委員会
	11月10日	骨髄バンクチャリティ コンサートと落語会	千葉県 成田市 千葉骨髄バンク推進連絡会
	12月22日	骨髄バンク支援クリスマスコンサート 2018	兵庫県 姫路市 姫路地区骨髄バンク推進センター

③ 協力事業

開催期間	事業名・内容	主 催	
2018年	10月8日	2018グリーンリボンランニングフェスティバル	NPO法人日本移植者協議会ほか
	11月3日	としまふれあいバザール	豊島区明るい社会づくりの会

④ 名義後援事業

開催期間	事業名	開催場所	主 催
2018年	4月7日	第26回骨髄バンクチャリティーコンサート 「円覚寺ピアノ三重奏の夕べ」	神奈川県 鎌倉市 神奈川骨髄移植を考える会
	6月23日	15周年記念事業「医療講演会」	宮崎県 都城市 みやざき骨髄バンク推進連絡会議
	6月23日	「あやちゃんの贈り物」と骨髄バンク展	埼玉県 さいたま市 埼玉骨髄バンク推進連絡会
	6月24日	骨髄バンク支援「愛のコンサート」in 奄美	鹿児島県 奄美市 かごしま骨髄バンク推進連絡会議
	8月26日	骨髄バンクチャリティ麻雀大会2018 in 東京	東京都 港区 ノーレート麻雀ネットワークニュー ーロン
	9月15日	骨髄バンク推進全国大会2018 in 滋賀	滋賀県 大津市 公益財団法人日本骨髄バンク
	9月16日	かながわボランティア活動推進基金21 骨髄ドナー登録推進事業	神奈川県 横浜市 神奈川骨髄移植を考える会

	11月4日	ピアノ三重奏コンサート	東京都 文京区	骨髄バンクを支援する東京の会
	11月10日 ～11日	東京雪祭 SNOW BANK PAY IT FORWARD2018	東京都 渋谷区	一般社団法人 SNOW BANK
	11月末公開	専門医による動画で学ぶ「もっと知ってほしい急性リンパ性白血病のこと」	WEB サイト	特定非営利活動法人 キヤンサーネットジャパン
2019年	3月10日	骨髄バンクチャリティー麻雀大会2018 in大阪	大阪府 大阪市	骨髄バンクチャリティー麻雀大会 in 大阪実行委員会

⑤ 展示会への協力

あやちゃんの贈り物展 1994年7月から事業開始

開催期間		開催場所		主催
2018年	6月23日 ～24日	埼玉県 川越市	アトレマルヒロ	埼玉骨髄バンク推進連絡会
	6月24日	鹿児島県 奄美市	奄美文化センター	かごしま骨髄バンク推進連絡会議

計2カ所 累計開催数 282回

MAMOのメッセージ展 1997年6月から事業開始

開催期間		開催場所		主催
2018年	8月14日 ～9月1日	岩手県 遠野市	道の駅「遠野風の丘」 市民ギャラリー	骨髄バンクを支援するやまがたの会 遠野支部
	10月16日 ～25日	山形県 山形市	イオンモール山形南	骨髄バンクを支援するやまがたの会
	11月1日 ～15日	山形県 山形市	山形県庁	骨髄バンクを支援するやまがたの会
2019年	3月16日 ～31日	岩手県 遠野市	道の駅「遠野風の丘」 市民ギャラリー	骨髄バンクを支援するやまがたの会 遠野支部

計4カ所 累計開催数 139回

患者とドナーのお手紙展 2004年9月から事業開始

開催期間		開催場所		主催
2018年	10月5日 ～9日	北海道 札幌市	北海道庁ロビー	北海道骨髄バンク推進協会
	10月15日 ～16日	北海道 札幌市	札幌駅地下歩道空間大通東広場	北海道骨髄バンク推進協会

計2カ所 累計開催数 54回

いのちの輝き展 2006年6月から事業開始

開催期間		開催場所		主催
2018年	5月1日 ～9月4日	岐阜県 大垣市	大垣共立銀行 大垣市内の各支店ロビー、本店ロビー	岐阜骨髄献血希望者を募る会

	8月2日	千葉県 山武郡	九十九里町保健センター (わたしががんばったよ展同時開催)	千葉県骨髄バンク推進連絡会
	8月6日 ～10日	千葉県 大網白里市	大網白里市役所 (わたしががんばったよ展同時開催)	千葉県骨髄バンク推進連絡会
	8月14日 ～30日	千葉県 山武郡	横芝光町健康づくりセンター (わたしががんばったよ展同時開催)	千葉県骨髄バンク推進連絡会
	9月11日 ～17日	千葉県 山武郡	九十九里町中央公民館 (わたしががんばったよ展同時開催)	千葉県骨髄バンク推進連絡会
	9月21日 ～27日	千葉県 茂原市	茂原市立図書館 (わたしががんばったよ展同時開催)	千葉県骨髄バンク推進連絡会
	10月3日 ～17日	兵庫県 姫路市	姫路みゆき献血ルーム姫路大学、 姫路市医師会看護専門学校	姫路市保健所予防課
2018年	10月3日 ～17日	千葉県 東金市	東金市保健福祉センター (わたしががんばったよ展同時開催)	千葉県骨髄バンク推進連絡会
	10月18日 ～30日	千葉県 山武郡	横芝光町健康づくりセンター (わたしががんばったよ展同時開催)	千葉県骨髄バンク推進連絡会
	10月31日 ～11月7日	千葉県 山武郡	山武市役所 (わたしががんばったよ展同時開催)	千葉県骨髄バンク推進連絡会
	11月8日 ～18日	千葉県 長生郡	睦沢町中央公民館 (わたしががんばったよ展同時開催)	千葉県骨髄バンク推進連絡会
	11月26日 ～12月3日	千葉県 長生郡	白子町健康づくりセンター (わたしががんばったよ展同時開催)	千葉県骨髄バンク推進連絡会
2019年	3月11日 ～15日	千葉県 船橋市	船橋市役所、船橋保健所	千葉骨髄バンク推進連絡会

計 13 カ所 累計開催数 126 回

わたしががんばったよ展 2012年11月から事業開始

開催期間	開催場所		主 催	
2018年	8月2日	千葉県 山武郡	九十九里町保健センター (いのちの輝き展同時開催)	千葉県骨髄バンク推進連絡会
	8月6日 ～10日	千葉県 大網白里市	大網白里市役所 (いのちの輝き展同時開催)	千葉県骨髄バンク推進連絡会
	8月14日 ～30日	千葉県 山武郡	横芝光町健康づくりセンター (いのちの輝き展同時開催)	千葉県骨髄バンク推進連絡会
	9月11日 ～17日	千葉県 山武郡	九十九里町中央公民館 (いのちの輝き展同時開催)	千葉県骨髄バンク推進連絡会
	9月21日 ～27日	千葉県 茂原市	茂原市立図書館 (いのちの輝き展同時開催)	千葉県骨髄バンク推進連絡会

10月3日 ～17日	千葉県 東金市	東金市保健福祉センター (いのちの輝き展同時開催)	千葉県骨髄バンク推進連絡会
10月18日 ～30日	千葉県 山武郡	横芝光町健康づくりセンター (いのちの輝き展同時開催)	千葉県骨髄バンク推進連絡会
10月31日 ～11月7日	千葉県 山武市	山武市役所 (いのちの輝き展同時開催)	千葉県骨髄バンク推進連絡会
11月8日 ～18日	千葉県 長生郡	睦沢町中央公民館 (いのちの輝き展同時開催)	千葉県骨髄バンク推進連絡会
11月26日 ～12月3日	千葉県 長生郡	白子町健康づくりセンター (いのちの輝き展同時開催)	千葉県骨髄バンク推進連絡会

計 10 カ所 累計開催数 29 回

3) その他

・学生の学習・研修対応

2019年2月15日 中野区立中野中学校 社会貢献の学習 5人

・寄付贈呈式

開催期間	内 容	主催者・事業名等	
2018年	4月12日	寄付贈呈式(田中重勝理事長)	筑前いづか雛のまつり
	4月15日	寄付贈呈式(大谷貴子顧問)	高松グリーンロータリークラブ
	4月18日	寄付贈呈式(田中重勝理事長)	東京港南マリンロータリークラブ 45周年記念式典
	6月17日	寄付贈呈式(梅田正造副理事長)	ゴールドジム格闘技スクール発表会2018
	11月24日	寄付贈呈式(辻枝雄理事)	NPO法人サカエ会 チャリティーボウリング大会
2019年	1月21日	寄付贈呈式(山村詔一郎理事)	ゴールドジム関西スクール発表会2018
	1月27日	寄付贈呈式(村上忠雄副理事長)	ゴールドジムフィットネスフェスタ 2019
	2月4日	寄付贈呈式(田中重勝理事長、大谷顧問)	プルデンシャル生命保険株式会社
	2月6日	寄付贈呈式(田中重勝理事長)	東京港南マリンロータリークラブ例会
	2月18日	寄付贈呈式(梅田正造副理事長)	品川明るい社会づくりの会新春の集い
	2月22日	寄付贈呈式(田中重勝理事長)	東京新都心ライオンズ30周年チャーターナイト
	3月13日	寄付贈呈式(田中重勝理事長)	瑞浪桔梗ライオンズクラブ25周年記念事業例会

4) 普及啓発グッズの作成、配布

新たな啓発グッズとして「今治のミニハンカチ」作成し、従来のハローキティポケットティッシュを作成しました。その他、在庫のクリアファイルやバンダナ、のぼりなどの普及啓発グッズを加盟団体、各地方自治体を介して配布しました。

① グッズの作成と活用

グッズ名	配布先	作成時期	
		個数	時期
ハローキティポケットティッシュ	加盟団体へ 地方自治体など	129,500個 67,669個	210,000個 2018年11月
ハローキティクリアファイル	加盟団体へ 地方自治体など	1,250枚 844枚	5,000枚 2017年6月
ハローキティバンダナ	加盟団体へ 地方自治体など	0枚 86枚	— —
ハローキティのぼり	加盟団体へ 地方自治体など	7枚 19枚	— —
ハローキティうちわ	加盟団体へ 地方自治体など	0枚 36枚	— —
今治のミニハンカチ	加盟団体へ 地方自治体など	2,800枚 3,851枚	10,200 2018年4月

2. 患者・ドナー支援事業

1) 患者・家族への支援活動

① 「白血病フリーダイヤル」による相談活動

全国協議会の患者支援活動の原点である「白血病フリーダイヤル」による相談活動は、1996年7月の開設から22年を経過しており、本年度の開設回数は52回、受付相談件数は282件（前年度282件）でした。また、悩める患者さん等に十分情報が届いていないとの声もあり、フリーダイヤル相談活動の認知度を高めるため、Webサイトの全面更新に合わせてHPの改善を行う検討を行い年度末に公開しました。

白血病フリーダイヤル（患者相談受付）（累計 1,171回、8,365件）
 開設回数 52回（毎週土曜日）
 受付相談件数 282件
 相談員数 延べ152人（うち医師 延べ24人）

② ハンドブック「白血病と言われたら」の普及配布活動

2014年に作成した「白血病と言われたら」改訂第5版については、患者・家族への普及配布するだけでなく、関係学会と病院、医学部学生や看護師養成学校でのテキストとしての活用を全国的に進めるなど、積極的な普及配布を行いました。

ハンドブック「白血病と言われたら」(疾患・治療編と闘病支援編 2冊セット)
配布部数 普及配布 2,254 セット、販売など 95 セット

③ 患者支援基金による支援活動

・「佐藤きち子記念造血細胞移植患者支援基金」の運営状況

基金枯渇により 2014 年から 2 年間休止（過去 3 度目の休止）したが、基金の積み増しができ、2016 年末から申請受付を再開しました。本年度の申請件数は 15 件、助成件数は 18 件でした。

佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金
問い合わせ件数 80 件
申請件数 21 件
助成件数 18 件、助成総額 2,562,782 円
(累計 助成件数 267 件、助成総額 79,418,327 円)

・「志村大輔基金」の運営状況

分子標的薬の助成件数は、本年度は 75 件（前年度 78 件）、精子保存の助成件数は本年度 14 件（前年度 17 件）でした。

志村大輔基金
問い合わせ件数 86 件
(問い合わせ内訳 分子標的薬 57 件、精子保存 29 件)
申請件数 分子標的薬 77 件、精子保存 12 件
助成件数 分子標的薬 75 件、精子保存 14 件
助成総額 分子標的薬 3,800,000 円、精子保存 374,778 円
(累計 分子標的薬 助成件数 315 件、助成総額 16,440,000 円、
精子保存 助成件数 62 件、助成総額 2,491,450 円)

・「このとりマリーン基金」の運営状況

卵子保存の助成件数は、本年度 1 件（前年度 6 件）でした。基金が乏しくなったことから、昨年 1 月に助成上限額を 30 万円から 5 万円に改定しました。

このとりマリーン基金
問い合わせ件数 10 件
申請件数 卵子保存 3 件
助成件数 卵子保存 1 件
助成総額 卵子保存 163,596 円
(累計 卵子保存 助成件数 24 件、助成総額 5,635,124 円
体外受精 助成件数 2 件、助成総額 552,680 円)

④ その他、軽作業ボランティア

造血細胞移植を受けた患者さんに、会報の発送作業など事務局の作業をお願いし、社会復帰の一環となるよう、毎月 1 回実施しています。

開催回数 7 回 参加者 7 人参加

2) ドナー支援活動

各地方自治体におけるドナー助成制度については、全国の情報を各地に提供するなど、「ドナー助成制度」普及に努めました。実施主体は、市区町村に加えて都府県にも広まるなど、ドナーが提供しやすい環境づくりのひとつとなっています。

ドナー助成制度（2019年4月15日現在）
19都府県及び38都府県の454市区町村（日本骨髄バンク調べ）

全国協議会の「ドナーサポートダイヤル」による相談件数は、減少傾向にあります。日本骨髄バンクのドナーコーディネーター体制充実と説明パンフレット等の作成配布、さらに造血細胞移植コーディネーター（HCTC）の養成配置が進んでいることなどが要因と考えられます。

ドナーサポートダイヤル（ドナー相談受付）

受付相談件数 22件（うち電話受付 21件）
（累計 電話受付 1,234件、メール受付 242件 合計 1,476件）

パンフレット「ドナーになるってどんなこと？」配布状況

本人編	配布0冊	（在庫数 なし）
家族・職場編	配布200冊	（在庫数 1,800冊）

3. より良い骨髄バンク・医療を求める要望活動

1) 議員連盟との連携、要望活動

・骨髄・さい帯血バンク議員連盟へは、本年度は季節ごとに3回議員会館を訪問しました。本年1月31日議員連盟総会が開催され、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の確保に関する法律の一部を改正する法律」の施行案が承認されました。また、厚生労働省から国としての取り組み（①国庫補助金の大幅増額、②移植拠点病院の再編充実、③若年ドナー登録推進対策、④ドナー休暇制度の推進、⑤コーディネーター期間短縮化など）が報告され、事業機関の日本骨髄バンク、支援機関の日本赤十字社（臍帯血供給事業者）、学会からも現状と課題への取り組み状況が報告されました。

全国協議会は、「ドナー登録現場の課題解決に向けて」、提言1 ドナー登録に係る業務を日本赤十字社に一本化 提言2 採血を伴わない登録方法の検討 を具体的に説明し、要望しました。また、「患者さんのQOL向上を目指して」、提言1 行政におけるがん患者への妊孕性温存費用の助成制度拡充 提言2 就学支援などの拡充の必要性について説明し、要望しました。今後、上記4項目の提言の実現に向けての継続した働きかけが求められています。

2) 国・厚生労働省への要望活動

・2018年10月に厚生労働省の移植医療対策推進室と意見交換を行いました。全国協議会が、2017年7月7日厚生労働大臣あての要望書提出（議員連盟宛と同様項目）について、国の取り組み、考え方について率直に伺い、今後の対策の推進についての理解促進の機会となりました。

・本年度は、国の委員会（厚生労働科学審議会疾病対策部会造血幹細胞移植委員会）が計5回開催され、骨髄バンクとさい帯血バンク事業の推進について、国の前向きな姿勢が鮮明になりました。（傍聴参加4回）

3) シンポジウム・セミナー事業

・シンポジウムの開催

正しい医療知識を学ぶとともに、患者支援活動について理解の促進を図ることを目的として、2018年6月9日に、『2018全国骨髄バンクボランティアの集い in 東京』の記念講演、シンポジウムを開催しました。全国各地から加盟団体のボランティアをはじめ約150人の参加がありました。

記念講演は、「がんになっても、尊厳を持って安心して暮らせる社会を目指して～がん情報を活用しましょう～（国立がん研究センターがん対策情報センター長 若尾文彦先生）の記念講演と参加者との討論も行い、正しい医療知識を学ぶ機会となりました。

また、シンポジウムでは、「病気は克服したけれど～その後に続く長い人生」と題して、新聞記者、移植患者さんからの体験談など、各分野の方々からの報告、発表が行われ、患者支援活動の必要性について学ぶ機会となりました。

・ブロックセミナーの開催

全国各地域での活動を促進するため、本年度も地元団体（担当理事）が主幹団体としてブロックセミナーを開催しました。全国協議会の状況とドナー登録推進（若年層対策）の議論、各団体間の情報交換などを行いました。

開催期間		シンポジウム・セミナー	主催・協力等団体
2018年	6月9日	「病気は克服できたけど～その後に続く長い人生」	全国骨髄バンク推進連絡協議会
	11月24日 ～25日	東北ブロックセミナー（7団体40人参加）	福島県骨髄バンク推進連絡協議会
2019年	1月26日	九州地区ブロックセミナー（7団体27人参加）	リボンの会（九州担当理事）
	2月2日	関東・甲信越地区ブロックセミナー（6団体25人参加）	神奈川骨髄移植を考える会
	3月2日	北海道ブロックセミナー（4団体25人参加）	北海道骨髄バンク推進協会
	3月2日 ～3日	東海北陸ブロックセミナー（5団体30人参加：日赤・行政含む）	いしかわ骨髄バンク推進・はとの会
	3月2日	北海道地区ブロックセミナー（2団体23人参加、行政、その他参加）	北海道骨髄バンク推進協会
	3月16日	中四国地区ブロックセミナー（5団体22人参加）	骨髄バンクを支援する山口の会

4) 調査・研究事業

・造血細胞移植学会への参加

情報収集と活動状況・発表のため、2019年3月7～9日「第41回日本造血細胞移植学会」総会（大阪市）へ参加し「AYA世代がん患者の妊孕性温存の取り組み、公的助成制度の必要性」について、ポスター展示・発表を行いました。学会会場には全国協議会「啓発PRコーナー」を設置し、地元の関西骨髄バンク推進協会とともに啓発活動とハンドブック配布（300セット）を行うとともに、市民公開講座（参加者80人）では企画案の提案、司会者や患者体験者の紹介参加など、全面的に協力を行いました。

・国際協力について

世界保健機関（WHO=World Health Organization）の公認NGOである世界造血細胞移植ネットワーク=WBMT（Worldwide Network for Blood & Marrow Transplantation）と全国協議会がパートナーシップ提携（2014年4月）し、WBMTの中に設置された「患者擁護委員会」のアジア太平洋地区委員に選出されています。本年度は患者擁護委員会にはWebサイトでの参加でした。

・新興国の医療従事者育成へのマイレージ提供

全国協議会は、「アジア・太平洋地区の新興国の若手医療従事者（医師・看護師など）の育成促進を図る」ため、新興国からの来日研修・学会参加などに対して、デルタ航空のチャリティーマイレージを提供し、国際貢献する制度を創りました。その第一弾として、2018年11月3日～5日、台北市（台湾）で開催された「APBMT 学術集会」（アジア太平洋骨髄移植学会=Asia-Pacific Blood and Marrow Transplantation Group）に参加された4名に対し、チャリティーマイレージチケットを提供しました。今後、アジアでの医療発展に結びつくよう願っています。

・講演会参加

本年2月9～10日「日本がん・生殖医療学会」（岐阜市）、2月11日「AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会」（名古屋市）に参加し、「AYA世代がん患者と取り巻く問題、課題について」を学ぶとともに、こうのとりのマリーン基金の普及活動とともに、妊孕性温存（精子・卵子の採取保存）状況と出産例などについての研究状況を傍聴しました。

5) 日本骨髄バンク、日本赤十字社との連携

日本骨髄バンクおよび日本赤十字社血液事業本部とは、複数回の意見交換を行いました。これらの取り組みにより相互理解が促進され、今後の事業改善に役立てられるものと期待されています。また、関係機関からの要請により、役員・委員等を派遣し、患者・家族とドナー、ボランティアの視点から意見表明を行いました。

① 役員・委員の派遣

日本骨髄バンク評議員（大谷貴子顧問）

日本骨髄バンクアドバイザリーボードメンバー（菅早苗副理事長）

日本赤十字社造血幹細胞事業検討委員（田中重勝理事長）

- ② 日本骨髄バンク 理事会・評議員会・業務執行会議等の出席、傍聴
 2018年6月5日、6月21日、2019年3月18日 理事会3回開催 傍聴3回
 2018年6月21日 評議員会1回開催 出席1回 傍聴1回
 2018年4月～2019年3月 業務執行会議（10回開催） 傍聴10回
- ③ 日本赤十字社の造血幹細胞事業検討委員会の参加
 2019年2月15日 平成30年度造血幹細胞事業検討委員会 出席1回
- ④ 日本赤十字社 造血幹細胞事業広報作業部会の参加
 2018年5月23日、8月11日、11月6日、2019年2月19日 参加4回

4. 運動体の強化、財政改善活動

1) 各地ボランティア団体との連携、加盟団体の状況

・各地団体との交流

加盟団体や協力団体からの要望に応え情報提供などの連携協力を行いました。特に、厚生労働省や議員連盟の動きなどや参考資料については、加盟団体・理事会メンバーへの情報提供を適宜行いました。

ブロックセミナーや関係学会、関係団体への訪問、寄付贈呈などの機会をとらえ、青森、京都、大阪、金沢、福岡（飯塚市・福岡市）、岡山、仙台、山形、福島（白河市、いわき市）の各地を訪問し、地元団体と面談し交流を行いました。

・加盟団体の状況

年度末における加盟団体数は36団体（うち休会中5団体）で、協力団体は25団体です。本年度中に加盟団体の新規加入が1団体、退会が1団体ありました。

2) 組織運営のための会議開催

総 会 2018年6月10日（日） 1回開催 日本赤十字社本社2階大会議室

理 事 会 2018年5月20日（日）、7月16日（月）、10月21日（日）、
 2019年1月20日（日）、3月17日（日）
 以上5回開催、いずれも全国協議会事務所で開催
 電子メールでの臨時理事会 5回開催

代表者会議 2018年6月10日（日） 1回開催 日本赤十字社1階中会議室

理事セミナー 2018年7月16日（日）（理事会後に開催）
 虎の門病院血液内科部長谷口修一先生「造血細胞移植を考える」
 をテーマに、理事会メンバー、フリーダイヤル相談員が参加
 2019年1月20日（日）（理事会終了後）
 Colonb'sからのプレゼンテーション「若年ドナー登録者数の向上
 について」

3) 財政改善活動

全国協議会の事業運営に必要な活動資確保のため、ここ3年間にわたり収入の増加対策と支出の削減対策に取り組んで来ました。本年度の一般事業経費（患者支援基金を除く）については、昨年度に引き続き収支均衡させ黒字化させることが出来ました。

寄付金収入を増加させるため、企業との連携や東京マラソン財団寄付先団体への応募申請と審査対応、クラウドファンディングの実施企画と準備などの取り組みを行いました。その成果が期待されています。

5. その他

上記に掲げてもののほか、全国の各地団体と連携して、骨髄バンク事業の支援活動、患者・家族への支援活動、ドナー支援活動、造血細胞移植医療の充実のための活動を行いました。